

香取遺産

①伊能忠敬記念館裏の用水路の想定位置
②江戸時代中期の佐原村の用水路と道



vol.185 佐原市街地の用水路跡

江戸時代、佐原の市街地には用水路が整備されました。今は狭い路地にその面影を見ることができます。延宝3(1673)年に市街地から見て小野川上流ケ崎方面までに至る用水路が整備されました。用水路は整備に携わった名主の伊能三郎右衛門家の敷地(現伊能忠敬旧宅など)を横切る形で分岐し、小野川を本宿側から新宿側に大樋で越えるものでした。

当時の小野川河口は海水が混じる汽水域(きすいき)であつたことに加え、増水時に水量を制御することが困難でした。大きな河川から直接用水路を引くと、小野川下流の水位が低いため用水路沿いに増水した水が流入しやすく、市街地に大きな被害を出しかねません。そのためか佐原の用水路は小野川上流から水を引き、標高約3mにあるところを通っています。

用水路は時代によって変化していますが、小野川下流から仁井宿方面や岩ヶ崎方面にまで安定した水資源を供給しました。また、かつて小野川をまたぐ大樋は、農閑期(のうかんき)など水の需要が減る時には水を小野川に落水させていました。現在その風景が再現されています。

延享2(1745)年の絵図を基に現在の地図に用水路を反映した図では、現在では道路となっているところも多くあります。本宿側では佐原小学校校舎前から荒久方面へ、新宿側では伊能忠敬記念館入口脇の道や、佐原駅方面へと続く一方通行路などとしてたどることができます。また、市街地が拡大する前は、用水路より低い所は水田、高い所は畠地などに利用されました。普段は狭いと感じる道でも、その歴史に思いをはせると印象が変わってくるのではないでしょうか。